



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2017.5

No.398

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



じいさんのパソコン苦労話

舞田治三（さいたま市）

最近、パソコンで、とんでもない目に会った。今回は鳥の話ではなく、その話を聞いてください。

なにしろ、生まれた時から身近にパソコンがある今どきの若者たちとは違い、私らが生まれ育ったころには、んなものは全然なかったのだよ。だから、それに初めて手を触れたのは、50歳をとうに過ぎてからのことだ。もうすっかりこっちこちに固くなっていた頭をなんとかなだめすかしながら10数年、見様見真似の独学で列の端っこの隅っこのに何とかついていこうという有様で、まあ一応は使えるようになったかな、と。それがなぜそのように動くのかは、まったく分からない。テレビの原理は分からなくても、見ることはできるって。その程度のパソコンユーザーなんです。

ことの始まりは、あるボランティア団体に届いていたはずなのに行方不明になってしまったメールを探していた時のこと。団体に対し責任があることから、つつい、いつの間にか熱くなっていたのかもしれない。普段なら入り込まないような部分にまで入り込んで、普段なら見向きもしないような怪しいメールを開けてしまったらしい。

ふと気がつくと、ファイルの拡張子が「.zzzzz」とかいう変なものに変わっていて、開くことができない。ファイル群のトップにある「INSTRUCTION.html」なるものには、「暗号化されたので、復号化するには、これこれこうしなさい」と、書かれている。その日本語がどうも変だ。やられた！ **多分ウイルスとかいうやつだ！**

まず、私のパソコンにアドレスが登録されている人たちに再感染しないように、急いでネット通信回路を抜いた。そして、どの範囲

までやられたかを調べた。私は「パソコンは故障するものだ」との前提で、パソコン本体内のハードディスクには一切データを保存せず、外付けハードディスクにのみ保存している。更にもうひとつ外付けハードディスクをつないで、そちらをバックアップとして使っていた。ところがなんと、たまたまその時バックアップ用ハードディスクもつながっていて、電源も入っていたからたまらない。もとのハードディスクも、バックアップ用ハードディスクも、全部やられていることがわかって愕然とした。わあ、どうしよう。バックアップからの復元もできない。ただ、やられたファイルはワードなどの文字情報ファイルだけであり、「jpg」などの画像ファイルは無事なようだった。

先ず、システムの全部を対象に、ウイルス対策ソフトのフルスキャンを徹底的に何度も繰り返した。一度のフルスキャンに長い時間が必要だ。数日かけて、少なくともそのウイルス対策ソフトが認識できるウイルスは私の全システム内に存在しないことを十分に確認し、そのかわり、何やかや、参考になるかもしれないと思いつく所に電話をかけた中で、詳しくは聞けなかったが、某専門家から、そのタイプのウイルスは一度発動すれば、その場で消滅するものだという話を聞いた。そこで、おそろおそろネットに接続し、どういうウイルスで、どのように対処したらよいかを調べ始めた。

「ランサムウェア（Ransomware）に感染したコンピュータはシステムへのアクセスを制限される。この制限を解除するため、被害者はransom（身代金）を支払うよう要求される。数種類の形態のランサムウェアは、システムのハードディスクドライブを暗号化し（暗号化ウイルス恐喝）、また他の幾種類かは単純に

システムを使用不能にし、ユーザーに対して身代金を支払うようにそそのかすメッセージを表示する」とのこと。**まさにこの中の暗号化ウイルス恐喝だ。**うん、これだこれだって、喜んでいちゃいけないけど、一步前進とは言える。

この調べの中で、それ用のウイルス対策ソフトでなければ対応できないこと、やはりこのウイルスが次から次へと感染を広げることはないということを知った。わあ、その点は助かったなとほっとする。それにしても、一応名が知れていてある程度信頼していたウイルス対策ソフトに、そんな限界があるとは知らなかったな。

脅迫に応じて身代金を払うことは論外だ。では、どうするか。助かった画像データ以外のデータはすべてあきらめるか。自分のデータだけだったらそれもできるだろうが、関係しているボランティア団体などのデータが多く、それを失ったままでは、多くの人たちに迷惑がかかる。

「ランサムウェア復号」で検索すると、山ほどの業者さんが出てきた。どのように選んだらいいか悩み、少し気になったA社と軽く連絡をとりながら、ボランティア仲間でパソコンに強いS氏に、業者さんに心当たりがないか聞いてみた。S氏は業者さんを知らなかったが、強力なセキュリティーにははじかれず、HPを見ても特に問題点が見いだせなかった2社を知らせてくれた。その中の1社が、私も注目していたA社だった。

もう1社であるB社には直接出向き、50～60万円かかると聞いて、早々とあきらめながらも、ランサムウェアのことを、できるだけ聞いて勉強した。この辺の図々しさは年寄りの特権だ。B社の担当者も、いやな顔もせず、いろいろ話をしてくれた。とにかく最近被害が急増しているとのこと。

その後の細かいやりとりは飛ばして、結局A社さんに依頼して約2週間、B社の半額プラスちよいで、全部ではないが、**ほとんどのファイルが復旧できた。**高くて痛い授業料だ。

そのA社さん自身が仕掛け人じゃなかったの？と言いたくなる向きもあると思うけど、もうその辺はある程度割り切るしかないだろう。

ちなみに、感染容量500ギガまではこの料金とのこと。できるだけ内部データを外に出したくなかったので、最初は必要度の高い、これがないとホントにホントに困るのよ、というデータだけを送って復旧してもらい、その仕事ぶり、やりとりの対応などを見てから、再度その容量の範囲内で多くのデータの復旧を依頼するという手順を踏んだ。

高くて痛い授業料を払って学んだ私なりの**ランサムウェア対策は、**

- 1, ランサムウェア対応機能のあるウイルス対策ソフトで防御を固めること。ただし、ウイルス側が日々変化(「進化」とは言いたくない)しているので、それで100%対処できるとは言えないらしい。
- 2, バックアップはパソコン本体内のハードディスクではなく、外付けハードディスクに入れて、常時接続はしない。バックアップ作業など必要な時に限り接続し、電源を入れる。必要な作業が終わったら、すぐに接続を抜き、バックアップ用外付けハードディスクの電源を切る。
- 3, 特にメールソフトを起動している時は、バックアップ用外付けハードディスクを接続しない。
- 4, 心当たりのないメール、なんか怪しいなという感じがしたり、よく分からないメールは、絶対に開かず、直ちに**完全に削除する**。「送って来た人に失礼になるのでは」などと、気にしてはいけな。
- 5, メールソフトで、HTML表示、プレビュー表示はしない。(メールを開いたのと、同じことになる)

あと、ソフトなどの定期的な更新、Updateなどもあるけど、まあ大体こんなところかな。どうか皆さん、くれぐれもご注意ご用心を。

私の名前の読み方? 「マイッタ ジイサン」と読んでおくれ。こほこほこほ。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●アオシギ

英名 Solitary Snipe

学名 *Gallinago solitaria*

分類 チドリ目シギ科タシギ属



千島康幸当会幹事より、2017年2月2日午前9時30分ごろに東松山市内で撮影した、上掲ほか2枚の写真が寄せられました。当委員会で写真を検討した結果、アオシギであることが確認できたので、339番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版(2015年)に拠れば、本種は「冬鳥として低地～山地の溪流畔や湿地に渡来する…」ということですが、当県内での日付の明らかな記録は、当会県内野鳥リスト収録対象期間より前の、『埼玉県動物誌』(1978年3月)が載せる1917年と1918年の、現在の日高市内における2例(各1羽)しかありません。

ついで、当会会員の山田東二さんから、本年2月8日夕方に飯能市内で撮影した写真2枚が寄せられました。本種の数少ない記録ですので、併せて発表します。

本種は「日露渡り鳥条約」・「日中渡り鳥協定」の指定種です。

●クロアシアホウドリ

英名 Black-footed Albatross

学名 *Phoebastria nigripes*

分類 ミズナギドリ目アホウドリ科アホウドリ属



2017年2月7日、越谷市環境政策課より山部直喜当会副代表に、同課が同月2日と6日の2度、同市内で保護・放鳥した大型の鳥類について同定の依頼がありました。寄せられた上掲ほか3枚の写真を当委員会で検討した結果、いずれもクロアシアホウドリであることが確認できたので、340番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。同課の話では、「確証はないが、2度にわたり保護した鳥は同一個体の可能性が大きい。また、そのあと八潮市内で保護された大型鳥類も同一個体ではないか」ということです。

本種は外洋性の海鳥ですので、海からの強風などによって内陸部に迷行したものと思われます。正式な記録にはなりませんでしたが、比較的近くは1988年9月に、利根川の阪東大橋下流での観察例(本誌1988年11月54号、写真なし)があります。

本種は「日米渡り鳥条約」・「日露渡り鳥条約」・「日中渡り鳥協定」の指定種です。

- 参加者が大勢でびっくりしました。但し、スタッフの方も多くいらっしやいましたので、説明も十分してもらえました、感謝。
- 大変明るい雰囲気でしたので、当日に「6ヵ月のお試し会員」に入会させていただきました。今後ともよろしく。
- 初めての参加でした。双眼鏡の使い方、鳥の名前、生態などもスタッフの方がいろいろ教えてくださって楽しかったです。BWの魅力にはまりました。
- スタッフの対応が丁寧で好感が持てました。参加者が多く、観察用の望遠鏡の数が足りないと感じました。 2016.12.11「会員を増やすための探鳥会(大宮公園)」参加者の感想から

国内 500 種達成!! 我がライフリストに想う
榎本秀和(鴻巣市)

◇ 父の死から

私の父は 52 歳で病死した。なんとあっけない最期だったことか…。さぞかし無念であったことだろう。

父の死を経験した私は、自分の一生もこんなものかも? と考えるようになっていた。そして、限られた人生 50 年でいったい何ができるのか、考えた。思いついたのは、日本国内で出来るだけ多くの種類の野鳥を見ること。そう、「50 歳までに 400 種」を目標に定めたのだ。しかし、ただ数を競うことが目的ではない。自分一人で識別できるまで、納得のいく観察をするというのが「1 種」の基準だ。

◇ 400 種達成を過ぎて

ところが、「400 種」は意外に早かった。43 歳で達成してしまったのだ(『しらこぼと』2001 年 6 月 206 号参照)。そこで、次なる目標を立てた。今度は「60 歳までに 500 種」だ。

父の行年という「ハードル」も難なくクリアし、順調にライフアークは増えていった。かなり厳しい目標と思われた「60 歳までに」に、なんとか目処が付いたのは 58 歳を過ぎたころ。今まで見逃してきた野鳥との出会いを求めて、私は若いころのような積極的な探鳥を再開した。

◇ 500 種達成

2016 年 10 月、本県内でモリムシクイが出た。この鳥は、かつて石川県舩倉島で見逃した思い入れの深い鳥なのだが、なんと埼玉で見ることができたのだ。これが 499 種目となり、「500 種」に王手がかかった。

そして 11 月、「タカサゴクロサギ」の報に接し、500 種目を飾る野鳥として不足なしとみた私は、11 月 10 日(この日はたまたま仕事で休みだった)、大阪日帰り遠征を決行、首尾よく観察に成功した。59 歳 9 か月と 14 日目のことだった。

帰りの新幹線で、私は亡父のことを想いながら、静かに、缶ビールを飲み干した。

換気扇にメジロ

中村圭子(鴻巣市)

1 月 20 日、お昼の支度を終えて、ガス台の上の換気扇を止めた直後、何やらカサコソと音がするので、中を覗いたら、換気扇の中にメジロがいました。まず、台所を閉め切って、他の部屋に行かないようにして、鍋などの熱いものにはフタをして、落下に備えてから、換気扇の金網を外し、ガラス戸をあけて、何とか無事解放? 放鳥? に成功。

あへ、ビックリした。

鳥見ランキング

2016 年の結果と 2017 年のご案内

普及部

恒例となりました県内鳥見ランキング、2016 年の結果を発表いたします。

観察鳥種数部門では、千島康幸さんが 148 種でチャンピオンに輝きました。おめでとうございます。第 2 位は榎本秀和さんで 115 種でした。なお、探鳥会参加回数部門は残念ながら応募がありませんでした。

次回 2017 年の鳥見ランキングは、観察鳥種数部門と探鳥会参加回数部門を統合して実施します。日本野鳥の会埼玉が主催する探鳥会で観察(姿または声を確認)できた種数(県内外を問わず)を競っていただきます。

ただし、複数の探鳥会で観察した同一種の鳥は 1 種とします。対象期間は 2017 年 1 月から 12 月までです。数多くの探鳥会に参加してたくさんの鳥を見ましょう。応募フォームは自由ですが、当会の HP から応募用のエクセルファイルをダウンロードできるようにいたします。

応募方法は『しらこぼと』12 月号でご案内する予定です。

2016 年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏名	住所
1	148	千島康幸	小川町
2	115	榎本秀和	鴻巣市



野鳥情報

蓮田市黒浜(5339-7574) ◇11月12日、田んぼの水たまりでタゲリ1羽、年々飛来数が減少しているが、今年も来てくれた。50羽以上のハシボソガラスの群れ、そのなかに10羽ほどのミヤマガラスが混じっていた。こちらは年々飛来数が増えている(田中幸男)。

春日部市武里中野 ◇11月12日午後4時28分、南西方向の住宅地上空から北東へ向かって、ムクドリより小さい小鳥1羽が「チョッ、チョッ、……」と鳴きながら飛んで行くのを目撃。スズメ大。ヒヨドリほどははっきりしていない緩やかな波状飛行でまっすぐ田んぼ上空を移動した。ウグイスと思われる。こんなことは初めてだ。4時40分、道端の電線にとまっていたツグミ1羽が人家の庭の柚子の木に舞い降りた。ちょっとばかり周囲を窺った後、葉の中にさっと姿を消して出てこなかった。ツグミの塀入りであった。4時45分、ケヤキの梢でモズの「キチキチキチ……」の声とともに、「ヒッ、ヒッ、ヒッ……カタカタカタ」の声。近くの人家の屋根の端からジョウビタキ♂1羽の姿が目に入る。これも間もなく姿が見えなくなり、声も聞こえなくなった。ジョウビタキの塀入りだった。4時52分。日も沈み大分薄暗くなったが、田んぼからヒバリの地鳴き「ビリッ」。その後、4時54分、さえずり始めて暫く続いた。この日は小春日和で夕方でも暖かったこともあり、ヒバリは日没後でも囀ることを知った(石川敏男)。

さいたま市の鴨川 ◇11月13日、根切橋付近でカンムリカイツブリ1羽。獲物の魚を手間取りつつも嚥下。堀の内橋までの間でカルガモ60羽+、マガモ20羽、コガモ80羽+、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、オオバン、バンなど。12月23日午後、三橋総合公園付近でオカヨシガモ♂3羽、ヨシガモ♂1羽、ヒドリガモ12羽、オナガガモ7羽、カルガモ24羽、クイナ1羽(ミミズを捕食)、オオバン、バン、アオサギ、カ

ワセミ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、モズ、ベニマシコ、コゲラ、ツグミなど(大塚純子)。

さいたま市中央区与野公園 ◇11月14日、いつもの通勤で通る公園中央の池、湧水が出ている場所に小鳥の群れ。よく見ると、今季あちこちで見られているというアトリ。軽く30羽はいるでしょうか。興奮して観察していると足下に気配……池のカルガモ15羽が「なんか、ちょーだい」と集結(石塚敬二郎)。

さいたま市桜区の鴻沼川 ◇11月15日、川底が見える流れの中を3羽のオオバンが泳いでいた。横の川辺でコサギが背を丸めて餌を漁っている。枯草の中から突然現れたのが、ジョウビタキ♂♀。上空をチョウゲンボウがヒラヒラと羽ばたきながら東へ飛んで行った(陶山和良)。

さいたま市中央区八王子5丁目 ◇11月19日朝、かやのき団地8号棟庭のイチョウでシロハラ1羽、「ツイー」と鳴く。数日前にも同じ場所でも「ポピョロン、ポピョロン」と囀っていた(大塚純子)。

川越市伊佐沼 ◇11月23日、ハジロコチドリらしき鳥が数羽いた。その中に、顔下部の、白い部分がオレンジ色(栗色)に染まっている個体が1羽(高野貴浦)。

狭山市入間川(5339-6322) ◇11月26日、本富士見橋付近にて、イソヒヨドリ♂冬羽、ユリカモメ7羽。この場所では、あまり見かけないダイサギ30羽ほどの群れを確認。広瀬橋上流域にてミサゴが川魚を捕獲するシーンが見られた(吉田 勉)。

加須市加須はなさき公園 ◇12月1日、コガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、キジ、カワセミ、カケスなど(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇12月3日、エナガ2羽、シジュウカラ5~7羽、メジロ5羽、アトリ1羽の混群が枝移りしながら移動していった。12月11日、アトリ20羽±が樫の木から飛び出した。12月19日、ハイタカが電線3本の間を縫うように飛ぶハクセキレイを執拗に追い回したが逃げられた。12月22日、ハイタカが梢にとまって周囲を睥睨

していた。12月24日、ナラ林で枝移りするアオゲラを久しぶりに見た。12月26日、アオゲラが自宅の柿の木にきた(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻文化公園 ◇12月5日、アトリの群れが榎の実を採餌、エナガ数羽の群れに顔の白いエナガが1羽混じっていた。他にベニマシコの声、カシラダカ、イカルチドリ、イソシギなど(長嶋宏之)。

吉見町吉見運動公園 ◇12月7日、ハヤブサが鉄塔にとまっていた。オオタカが狩りを試みたが失敗。トビが2羽、輪を描いていた。他にアトリの群れ、ツグミ多数、ヒバリ多数、シメ、マガモ、イソシギ、オオバンなど(長嶋宏之)。

川越市菅間 ◇12月16日午後11時20分頃、農道でコミミズク。派遣先から会社への帰路。運転中に前に鳥が降りてきた。驚く同僚。後続車がいないので、徐行で近づく。ライトに照らし出された姿はコミミズクだった。狩りの途中だったのかな。12月26日午後11時25分頃、同所農道の端の畦にコミミズク。足下に獲物を掴んで食べていた。やっぱりこの辺りが狩場なのだろう(大畑祐二)。

坂戸市高麗川 ◇12月18日午前9時30分、多和田橋近くの上流側左岸でオシドリ♂1羽。肩羽に頸を埋め休息状態で、ときどき顔を見せる。坂戸市流域では以前からオシドリは観察されるが、1羽〜3羽以内だ。水辺の小枝にとまるカワセミ♂1羽。オオバン3羽。右岸より中州にイカルチドリ1羽。天神橋上流2号堰上の水の流れて採餌するイソシギ1羽(増尾隆)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇12月18日、トモエガモ♂1羽♀1羽、スズガモ1羽。他にヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、コガモ、マガモ、カルガモ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリなど(長嶋宏之)。

蓮田市馬込根ヶ谷戸公園 ◇12月18日昼、ツグミがまだ木から下りていない。メジロとシジュウカラの混群約20羽がハナミズキの木に群れていた(本多己秀他3名)。

さいたま市岩槻区金重 ◇12月18日昼、ミヤマガラス40〜50羽が木にすずなり。嘴付け

根の白が目立つ(本多己秀他3名)。

さいたま市大宮区浅間町1丁目(5339-6580)

◇12月18日午後2時過ぎ、氷川神社参道で参道のケヤキや民家の屋根にとまったり、地上に降りたり、アトリの群れが飛び回っていた。50羽くらいはいたようだ。参道に沿ってさいたま新都心の方角に移動していた(森本國夫)。

川越市府川の越辺川 ◇12月22日、釘無橋付近でコハクチョウ、石田本郷でアカハラ(大畑祐二)。

横瀬町埼玉県民の森(E35.9925 N139.1567)

◇12月22日、オオマシコ♂2羽♀5羽、アトリ7羽、他に亜種アカウソ、ミソサザイ、ルリビタキ、ヤマガラ、コガラ、ツグミ、カケスなど(長嶋宏之)。

渡良瀬遊水地 ◇12月25日、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、カワセミ、アリスイ、コゲラ、モズ、オナガ、ウグイス、エナガ、チフチャフ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、セグロセキレイ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリンなど(大畑祐二)。

蓮田市東(7339-7572) ◇12月27日、買い物帰りの家内から「ケヤキにアトリの群れが飛来している」との連絡があったので、すぐに行ってみる。なんと数えきれないほどのアトリの群れが、ケヤキやサルスベリなどの木々にとまったり、飛び交ったりしていた。住宅街にある自宅近くで観察した最も多い野鳥の群れとなり、近くでのアトリ観察は今冬2回目となった。今冬他所でもアトリを観察する機会が何度もあり、例年になく飛来の多さを実感している(田中幸男・和子)。

表紙の写真

スズメ目ヨシキリ科ヨシキリ属オオヨシキリ

雨の中、バラソルの下で歌っているように見えませんか。 蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



ヒバリ（編集部）

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車・バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日（水・祝）

集合：午前 9 時 15 分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から
境車庫行きバス 8:45 発で「上宇和田」下車。
北方向に徒歩 5 分。

担当：佐野、佐藤、竹山、田邊、村上

見どころ：今年もシラコバトは見られる？

田んぼでムナグロやサギ類を探します。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日（金・祝）

集合：午前 9 時 30 分、JR 京葉線 南船橋駅前。

交通：JR 武蔵野線 武蔵浦和 8:27→南浦和
8:31→京葉線直通 南船橋 9:22 着。

担当：杉本、伊藤、手塚、長谷部、菱沼（一）、
菱沼（洋）、渡邊

見どころ：春の渡りのシギ・チドリ類を観察。
内陸性と沿海性の種類の違いを比較。

入間市・さいたま緑の森博物館探鳥会 （要予約）

期日：5月7日（日）

詳細は、4月号をご覧ください。

長野県・中軽井沢レディース探鳥会

期日：5月12日（金）

集合：午前 8 時、しなの鉄道 中軽井沢駅 改札前

交通：北陸新幹線大宮発 6:54（はくたか 551 号
金沢行）→高崎 7:18→軽井沢着 7:34 しなの

鉄道に乗り換え 7:41 発→中軽井沢着 7:45

解散：午後 2 時ごろ、ハルニレテラス。ここ
から軽井沢駅までの無料バスがあります。

担当：吉原（早）、相原（友）、野口（由）、菱沼（洋）、藤田
見どころ：キビタキ、オオルリなど夏鳥を探し
てハルニレテラスまで約 6 km を歩きます。

ご注意：足ごしらえはしっかりと。昼食持参。

小雨決行、嵐・大雨中止。女性限定です。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月13日（土）

集合：午前 8 時 40 分、東武伊勢崎線 花崎駅
南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または
午前 9 時、加須はなさき公園管理事務所前。

交通：東武伊勢崎線 春日部 8:14→久喜 8:27
→花崎 8:34。JR 宇都宮線 大宮 7:53→久喜
8:15 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原（修）、相原（友）、石川、植
平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ：囀る小鳥、採餌する小鳥。身近な
小鳥たちを青毛堀川～公園内で探します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月14日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50
発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、
中川、村上、茂木

見どころ：土手でアオジ、河原でコチドリ、野
鳥の森ではセンダイムシクイ、キビタキ等。

栃木県民の森・奥日光探鳥会 (要予約)

期日：5月20日(土)～21日(日)

受付は終了しました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月20日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：新緑の5月。山で営巣する小鳥達が三室で一休みしているかもしれません。

Young 探鳥会 with BIRDER 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地

期日：5月27日(土)

集合：午前9時15分、東武日光線 板倉東洋大前駅 東口。または午前9時30分、思い出橋駐車場。

共催：日本野鳥の会栃木、日本野鳥の会東京

協力：(株) 文一総合出版

協賛：(株) ニコンイメージングジャパン

担当：廣田、石塚(敬)、石塚(真)、佐野、島崎、高崎

見どころ：オオセッカをはじめ、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ。ヨシゴイ、サンカノゴイが見られることも。BIRDER 誌の取材、ニコンからの最新双眼鏡の貸出あり(数量限定)。ヤング、家族連れ、初心者大歓迎！
ご注意：お昼をはさんで午後1時30分ころ解散予定です。お弁当をご持参下さい。

長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：5月27日(土)～28日(日)

詳細は、4月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月28日(日)

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：梅雨入り前にたっぷり日を浴びて、鳥たちのさえずりを楽しみましょう。昼食持参者の多い探鳥地です。あなたも是非。

長野県・乗鞍～上高地探鳥会 (要予約)

期日：7月29日(土)～30日(日)

集合：29日、午前6時30分 大宮駅東口、または午前7時 川越駅西口の2カ所。

解散：30日、午後9時ころ 川越駅西口、または午後9時45分ころ 大宮駅東口の2カ所の予定。ただし、高速道路の渋滞等の交通事情により変更あり。

往復貸切バス(27人乗り中型)を使用。

定員：23名(応募多数の場合は先着順)。最少催行人数17名。

費用：定員23名の場合、46,000円

定員に満たない場合は次のようになります。

22～20名 47,800円

19～17名 49,700円

※上記費用に交通費・宿泊費・2日目の昼食代・保険料等が含まれます。

※宿泊先は五千尺ロッジで、一部屋2名です。ご夫婦・親子での同室は可。それ以外は男女別の相部屋で個室の用意はできません。

※今回のツアーは、近畿日本ツーリスト(株)の受注型企画旅行となります。人数・費用が確定したのちに同社から案内書が郵送されますので参加費を振り込んでください。

申し込み：往復はがきに住所・氏名・年齢・性別・生年月日・電話番号(保険加入に必要)・喫煙の有無・集合場所の大宮か川越を明記して、入山博(

)まで。5月1日消印から受

付開始とします。

担当：入山、近藤、長谷部

見どころ：今回は、ライチョウやコマドリが見られました。さて、今回は？ 畳平の高山植物と上高地の風景も楽しめます。



行事報告

12月3日(土) 所沢市 狭山湖

参加：38名 天気：晴

マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン ミサゴ トビ オオタカ フクロウ コゲラ アカゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ シメ ホオジロ アオジ (37種) (番外：ドバト、ガビチョウ) カモ類の数が驚くほど少ない。カンムリカイツブリは、沖合にそこそこ群れていた。終点近くで、遠い対岸の木に休むフクロウを確認。全員が観察できて、福を招く探鳥会となった。「対岸の紅葉の中に溶け込んでフクロウ(っと)己れの時間」 (石光 章)

12月4日(日) 北本市 石戸宿

参加：51名 天気：晴

コジュケイ キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト アオサギ クイナ バン トビ オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ アカハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (39種) 集合場所の上空にオオタカ。木道からアカゲラ。カワセミの池でキセキレイ。エドヒガンの前でモズ。桜堤ではアトリやカシラダカの群れ。高尾の池にはカワセミ、バン、カモ類。以上、全員で一緒に見られた。次から次へと鳥が出て来て、あっと言う間に時間が過ぎてしまった。 (吉原俊雄)

12月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：55名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カル

ガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン ユリカモメ トビ チュウヒ ノスリ カワセミ アリスイ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (49種) (番外：ドバト) 開始の挨拶前からカワセミ、チョウゲンボウ、シロハラが現れ、期待が膨らむ。調節池のいたる所にカンムリカイツブリ。ユリカモメが優雅に飛び交う。カモ類はヨシ原の中でじっと休んでいた。猛禽類はチュウヒとノスリが木に止まってくれた。ベニマシコやアリスイも出て、大成功の探鳥会。 (須崎 聡)

12月10日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加：59名 天気：晴

キジ ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン イカルチドリ カワセミ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリトラツグミ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ウソ シメ ホオジロ アオジ (38種) (番外：ドバト) 開始の挨拶前にハヤブサが目の前を飛翔。水場ではアトリの群れやヤマガラが近くで見られた。元荒川ではイカルチドリやカワセミ、カモ3種。帰りのテストコースではシメやエナガの白化個体を観察できた。一部の参加者はトラツグミやウソも。強風の悪条件の中でも昨年同期を上回る観察数であった。 (長野誠治)

12月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：44名 天気：快晴

キジ キジバト トビ ノスリ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ

イ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホ
オジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ
(30種) (番外：ドバト、ガビチョウ) コースは
ゴルフ場を大きく回るルート。モズ、シメ、ツグ
ミの常連は出現したが多くはなく、珍しい鳥もな
かなか見られない。集合場所からの出発時にハヤ
ブサが少し先の上空で舞い、さらに土手下にて間
近にジョウビタキが現れ、全員でよく観察できた
ことが良かった。(茂木幸蔵)

12月14日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：20名 天気：雨後曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナ
ガガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ カン
ムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト
カワウ アオサギ ダイサギ オオバン ユリカ
モメ セグロカモメ トビ チュウヒ オオタカ
ノスリ カワセミ アカゲラ ハヤブサ モズ
ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メ
ジロ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタ
キ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カ
ワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ オオジ
ュリン (45種) (番外：ドバト) 途中で雨が止み、
ミコアイサや浮島上のチュウヒやオオタカ等が
見つかった。中の島からの道の両側の木立で多く
の小鳥たちが姿を見せた。特にベニマシコはよく
見える枝に何羽も止まって歓声が上がった。雨で
遅れて東谷中橋折り返しのコースになったが、天
候の割には楽しい探鳥会になった。(玉井正晴)

12月17日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：50名 天気：快晴

コジュケイ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ
カルガモ コガモ ホシハジロ カイツブリ キ
ジバト カワウ アオサギ バン オオバン オ
オタカ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシ
ブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ
ウグイス エナガ メジロ シロハラ アカハラ
ツグミ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ
アトリ シメ アオジ (34種) (番外：ガビチ
ョウ) 風のない晴れた日。小鳥の出を期待して常
緑樹が残るコースを選択する。カモ類の数は少な
く、猛禽も1種に止まったが、地面と樹上を飛び
交う小鳥に目を凝らし、代わる代わる聴こえてく

る鳴き声に耳を澄ました。

(鈴木秀治)

12月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、
小林みどり、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、吉
原早苗、吉原俊雄

12月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：42名 天気：晴

コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
オオバン カワセミ コゲラ アカゲラ モズ
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒバリ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ
ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ
カシラダカ (27種) (番外：ドバト) 開始準備を
しているとアカゲラ飛来。何と初記録。しかし、
その後の鳥の出がふるわず、終わってみればカモ
はコガモのみ。途中休憩の斜面林内でシジュウカ
ラ、エナガ、コゲラの混群をゆっくり見られたの
が良かった。(浅見 徹)

12月18日(日) 戸田市 彩湖 Young

参加：49名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ カ
ルガモ ハシビロガモ トモエガモ コガモ ホ
シハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンム
リカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カ
ワウ アオサギ オオバン ユリカモメ カモメ
セグロカモメ トビ ハイタカ オオタカ ノス
リ カワセミ アリスイ コゲラ アオゲラ ハ
ヤブサ モズ カケス オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグ
イス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ア
カハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセ
キレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ ベニマ
シコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オ
オジュリン (55種) (番外：ドバト) 下見では見
られなかったアリスイ、トモエガモ、ヨシガモが
ヤン探に合わせるかのごとく出現。ベニマシコは
見やすい木にとまってくれ「念願の真っ赤なベニ
マシコが見られて嬉しい」という声も。終了後は
お昼をはさんで鳥合わせ&青空お茶会。まさに充
実した1日となった。(廣田純平)



連絡帳

● 埼玉県野鳥分布調査 2005 年～2010 年 報告『しらこぼと』増刊号を PDF 化準備中

本誌バックナンバーは通常しばらく間をおいてから PDF 化、当会ホームページ上に掲載していますが、本誌 4 月号に同封お送りした増刊号につきましては、早めに PDF 化して掲載しようと、現在 IT 委員会(佐野和宏委員長)で準備中です。

会員の皆様には紙面化した増刊号を直接お届けし、その他の皆様には、パソコン画面上でご覧いただくというものです。もちろん会員の皆様は、パソコン画面でもご覧いただけます。ご利用ください。

● 「研究部」を「調査部」に名称変更

毎年積み重ねているカモ科調査、シギ・チドリ類調査、タカの渡り調査などを担当している研究部(小林みどり部長)は、活動の実態がほとんど「調査」の範囲内で、「研究」にまで及んでいない状況を考え、前記分布調査のとり纏め刊行を機に、名称を「調査部」に変更することを役員会に提案、3 月 19 日(日)の役員会で承認されました。4 月 2 日(日)付けで名称変更します。部長の交代はありません。

● ホームページアクセス数増加中

2017 年 1 月 225 回/日、2 月 238 回/月と、新記録を更新中。上位 3 ページは“これまでの探鳥会風景”“今月の探鳥会”“埼玉県の探鳥地”でした。

● 会員の普及活動

3 月 12 日(日) 埼玉県立小川げんきブ

ラザ主催「ジャムづくりとバードウォッチング」が小川町金勝山登山道で開催され、千島康幸、松下光、青山紘一が指導しました。参加者 56 名。

● 会員数は

4 月 3 日現在 1,707 人。

活動と予定

● 3 月の活動

3 月 11 日(土) 4 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司)。10 日(金)海老原教子も。
3 月 19 日(日) 役員会(司会:海老原美夫、各部の報告・総会日程と会場・その他)。
3 月 21 日(火) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』4 月号と増刊号を郵便局から発送(事務局)。

● 5 月の予定

5 月 6 日(土) 編集部会。普及部会。
5 月 13 日(土) 6 月号校正(午後 4 時から)。
5 月 20 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
5 月 21 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

チクッとした。左足から落ちたものを照らす。「ヒメハブ!」。3 月 22 日 23:00 頃、沖縄本島北部の山の中。同行者がヒメハブ確認の写真撮影。傷口からブクッと血。つねるように絞る。救急車で運ばれ、約 2 時間後、病院で手当て。1 時間ごとのチェック。痛みはない。当直医「腫れもない。毒が注入されなかったかもしれない」。たくさんの方にお世話になった。しかし、また同地へ行くことをすでに計画中。(山部)

しらこぼと 2017 年 5 月号(第 398 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社